

大妻同窓会千葉だより

発行人 大妻同窓会千葉
印刷 株式会社山下印刷

責任者 浅野久子



ご挨拶

一般財団法人 大妻コタカ記念会
会長 井上 小百合

大妻同窓会千葉の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。
新緑の美しい時期に、今年も大妻同窓会千葉の総会が開催されますことお慶び申し上げます。千葉の会員の皆様には、大妻コタカ記念会に平素よりご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年、総会で上田榮子先生から大妻コタカ先生についていろいろなお話をお聞きできたことは大変有難いことでした。コタカ先生のお近くにおられて様々なエピソードも持ちで、上田先生を始め皆様に触られた方の中にはたくさんのお思い出がございました。私も中学生高校生の時に壇上に立たれてご挨拶されていた

コタカ先生のお姿、あの大きなお声などは今も心に残っており、こんな時にコタカ先生だっただけのようにお考えになるだろうか、と思うことはこれまでにも多々ありました。今の立場になって、コタカ先生を知れば知るほど類まれなスケールの大きい女性、偉大な教育者であり経営者であったことを思います。
昨年度の大妻学院創立110周年を記念する事業では皆様にご協力いただき有難うございました。生家の訪問では暑い時ではありましたが、千葉代表の浅野さんにご参加いただき、コタカ先生の東京への思いを皆様と共にした。また秋の講演会でも千葉の会員の方々に参加いただき、記念の年にふさわしい内容の講演会ができたものと嬉しく思っております。
また、記念会員の皆様には会誌「ふるさと」とともに、日めくりカレンダー「コタカ先生からの言葉」をお届けいたしました。いかがでしたでしょうか。コタカ先生がお亡くなりになって50年近く経つという今日にあって、教え諭された言葉の数々が色あせることなく、むしろ今だからこそ心にしみいると多くの方からお聞きして、作成して良かったと自画自賛しております。
大妻同窓会千葉の活動がこれからも長く続くことを願うとともに、大妻コタカ記念会へのご協力も何卒よろしくお願い申し上げます。

ごあいさつ

大妻同窓会千葉 代表 浅野久子

青葉が美しい季節になりました。会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。
さて、秋のバス旅行につきまして、同窓会千葉では長い間、貸し切りバスを利用して毎年行ってきました。しかし近年旅行参加者の減少なから貸し切りバスの値上がりのため、このたび「公共機関による旅行」に切り替えることに致しました。会員の皆様の御理解、御了承をどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年の秋の旅行は、当初バスの利用を考えていましたが、参加人数が非常に少なかったため、急ぎ、バスをキャンセルし電車による旅行に切り替えさせて頂きました。大変御迷惑をおかけしてしまい申し訳ありませんでした。しかしながら御参加頂いた皆様は突然の変更にもかかわらず御賛同下さいまして本当に感謝の気持ちでした。
旅行に因りましては地方同窓会でそれぞれ違っているのが現状です。「現地集合、現地解散」で旅行している同窓会も有りますし、旅行を行っていない同窓会もあります。会員の皆様、諸事情を御理解の上、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。お元気で過ごし下さい。

第45回 大妻同窓会 千葉総会

平成三十年五月十九日(土)に市川市文化会館で開催しました。来賓として記念会会長井上小百合先生と元記念会会長上田榮子先生に御挨拶頂きました。議事終了後、上田榮子先生による講演「素顔のお母さま」があり、今まで知らなかったコタカ先生のお話をお話頂きました。

午後には手芸で「フクロウ」の壁掛けを作りました。手間はかかりましたが、仕上がったフクロウはどれもとても可愛かったです。世代を越えて楽しくお話しし、校歌斉唱をしました。



総会の上田榮子先生

総会に出席して

上田 則子

先日はいろいろありがとうございました。早速、写真を送りました。お送りいただきありがとうございます。大先輩の貴重なお話が聞けて良かったです。午後からの手芸も楽しかったです。でき上がったフクロウが、こんなに可愛らしいです。お世話になりました。ありがとうございます。お返しにさせていただきます。

中地 弓子

連日の天候不順で心配していた雨も上々晴れて出席することができました。講演での上田先生は関連で



大妻同窓会 45 回総会



手芸作品「フクロウ」



総会 手芸製作中

喜寿を過ぎて「源氏物語」を読み始める

秋原 藤原 紀子

「源氏物語」は今から千年前の平安時代に紫式部により書かれた日本古典文学最高峰の長編大恋愛小説です。華麗なる平安貴族社会を舞台として54帖、四代の帝の70年間にわたり430余人の人物が登場します。現代語訳は与謝野晶子訳、谷崎潤一郎訳、円地文子訳、瀬戸内寂聴訳があります。私は最も分かりやすい「瀬戸内源氏」を読み始めました。まず、あらましを書いた「寂聴源氏塾」から始まり十巻ある内の只今四巻目を読んでいます。すべてが古くなって消えてゆく中で千年前の小説が読み継がれているのは人間の変わらぬ真実、特に男女の真情をあらわすところなく書いてあるからです。多彩な人物が織りなす喜怒哀楽の人間模様、四季折々の美しい自然を背景に見事に描かれています。「源氏物語」の主人公は「光源氏」です。天性の美貌と学問・雅楽・舞踊も超一流の男性です。このスーパースターである「光源氏」を取り巻いて多くの女性達が登場しています。

(一部、源氏物語研究会主宰の上鈴木春枝先生から引用させて頂きました。ありがとうございます。)

